



マナウス

平成 28 (2016) 年 8 月 29 日 第 6 号

学校教育目標

- ・自ら進んで学びとる子ども (知)
- ・礼儀正しく思いやりのある子ども (徳)
- ・心と体を鍛える子ども (体)

自分を磨き、光輝く二学期に！！

マナウス日本人学校 校長 中川 勝美

オリンピックイヤーの夏休みも終わり 8 月 23 日 (火) から二学期が始まりました。二学期には、アマゾン体験学習、水泳記録会、学習発表会、長距離走大会と大きな学校行事がたくさんあります。子供たちが活躍する学期であると共に、勉強をしっかりと身につける学期でもあります。二学期は、次の二点を重要なポイントとして取り組みたいと考えています。

まず一点目は、「二学期は学ぶ学期」にするということです。目標を立てるだけでなく、目標達成に向けて継続した努力を続けるため、授業に向かう姿勢や家庭学習の充実を図る教育活動に取り組んでいきます。

二点目は、「大きな声で挨拶をする学期」にするということです。しっかりと挨拶に取り組むことで、主体的にかかわる意欲を育てる教育活動を推進していきます。

そのためには、家庭の協力がが必要です。子供たちのより一層の成長のため、学校とともに取り組んでいきましょう。

さて、子供たちに二学期始業式で話をした内容の抜粋を紹介します。



100m・200mそして、リレーと金メダルを取ったウサイン・ボルト選手を知っていますか。ボルト選手は、実は、背中が曲がる難病をかかえています。このため、彼の走り方はガツクンガツクンと左右にアンバランスに体を傾けたバラバラな走り方になってしまい、肉体に余計な負担がかかります。肉離れをしてしまいやすい短距離走者としては致命的な欠点を持っていました。

どのコーチも100mをあきらめろと言いました。それでも、彼はこの欠点にめげず過酷な肉体トレーニングを続け、変わった走り方という欠点を長所に変え、記録を出し続けているのです。

みなさんは、一人ひとり自分の中に多くの可能性を持っています。しかし、そのままでは、光輝くことはありません。光輝くためには自分よりも硬いもので磨かないといけません。例えば、友だちの素晴らしいところに学ぶとか目標とする人の伝記をしっかり読むなどして自分を磨いてほしいと思います。また、光輝き続けるためには、ボルト選手のように欠点を長所にかえるような毎日の努力が大切なのです。

もう一つオリンピックで感動したことは、日本人選手がリレーで銀メダルを取ったことです。一人ひとりの記録は到底ほかの選手にかないません。記録だけでは、ほかの国に歯が立ちません。しかし、日本選手の作戦はバトンの技術を極限まで磨くことでした。必ずバトンが来ると信じて後ろを振り返らずスタートを切る。仲間と励ましあい、力を出し合う中で銀メダルを取れる総合力につながることを日本代表選手は教えてくれました。これこそが「絆の力」です。

これから二学期の目標を立てると思いますが、目標は実現するように最後までチャレンジすることが大切です。一人ではうまくいかなくても友達が側にいるだけで大きな力を出せることがあります。友達と助け合い、励ましあいながら、毎日自分をしっかり磨いて、100万ボルトに光輝く二学期になるよう期待しています。

新しい仲間ができました！～ようこそ マナウス日本人学校へ～

二学期から、4名も新しい仲間が増えました。これから仲良く勉強や運動に、そして様々な活動や学校行事にと楽しく学校生活を送ってほしいと思います。

- S. M (さん) 小学部 2 年
- H. K (さん) 小学部 3 年
- R. K (さん) 小学部 5 年
- N. K (さん) 中学部 1 年

全日コース 24 名、日本文化コース 12 名、合計 36 名となりました。

P T A 会長 M 様から変圧器を寄贈していただきました。有効に活用させていただきます。ありがとうございました。